

知財・情報フェア&コンファレンスにおける 「生成 AI を活用した発明発掘／発明創出」の展示・発表

— 2026 年（第 35 回）と 2025 年（第 34 回）の比較考察 —

調査基準日：2026 年 9 月 22 日

Claude Fable 5.1

【凡例】 本稿は、第 2～5 章を「確認できた事実」、第 6～7 章を「分析・推論」として区別して記述する。第 1 章（要旨）では推論部分に「（分析）」と付記した。出典は本文中に上付き番号で示し、詳細を文末の参考文献に掲げる。「未確認」は一次ソースで裏付けが取れなかった事項、「未検証 URL」は内容を取得・確認できなかった URL を指す。

1. 要旨

- **2026 年は「上流工程×エージェント化」へ前進。** 2026 年フェア（第 35 回、9 月 16～18 日、東京ビッグサイト東 3 ホール、閉幕済み）^[1]では、発明発掘・発明創出への生成 AI 活用が、チャット型の「壁打ち」から、AI エージェント／MCP 連携による自律型・業務フロー統合型へ前進した（分析）。象徴は NTT データの本格参入で、発明相談から発明提案書作成までを支援するサービス（2026 年 10 月以降提供）を掲げた^[2,3]。
- **2025 年は「生成 AI が主役」となった転換点。** 2025 年フェア（第 34 回、9 月 10～12 日、西 3・4 ホール）^[4,5]では、出展者プレゼンテーションが過去最多の全 86 テーマ^[6]、うち AI 関連は約 46 テーマ（53%超）とする分析がある^[7]。ただし発明発掘・創出を正面から掲げたのはトヨタテクニカルディベロップメント（swimy）、HackCamp（共創ナビ ivan）、AI Samurai、エム二等に限られ^[7,8]、重心は特許調査・明細書作成の効率化にあった（分析）。
- **プレイヤーと技術の変化。** 2026 年は上流工程（発明発掘・発明整理・発明提案書作成）を明示するプレイヤーが増えた（NTT データ、AI Samurai、リーガルテック、aiip、AIDAO 等）^[2,9,10,11,12]。技術面では MCP（Model Context Protocol）と AI エージェントが共通語となり^[12,13]、AI Samurai は複数 LLM の合議による発明創出機能や周辺特許群案の自動生成機能を打ち出した^[9]。一方で NTT データは「AI が発明を自動生成するものではなく」人の発明発掘を支援する点を明示しており^[2]、人間主体・AI 支援の設計思想が前面に出た（分析）。

2. 開催概要（確認できた事実）

表 1 開催概要の比較

項目	2026 年（第 35 回）	2025 年（第 34 回）
会期	2026 年 9 月 16 日（水）～18 日（金） ^[1]	2025 年 9 月 10 日（水）～12 日（金） ^[4]
会場	東京ビッグサイト 東 3 ホール ^[1]	東京ビッグサイト 西 3・4 ホール ^[5,14]
主催	（一社）発明推進協会、（一財）日本特許情報機構（Japio）、産経新聞社 ^[1]	産経新聞社ほか ^[4,15]
出展規模	2026 年の実績値は未確認	過去最大の 158 社・団体（事前発表時点では 152 社） ^[4,14,15]
来場者数	9/16：3,959 名、9/17：4,675 名、9/18：6,868 名、累計 15,502 名 ^[1]	累計 15,207 名（2026 年公式サイトに前回値として掲載） ^[1] 。Japio は「1 万 5 千名超」と記載 ^[15]
備考	英語名称を Intellectual Property Information Fair & Conference へ刷新 ^[1] 。INPIT も出展を告知 ^[16]	出展者プレゼンテーションは前年より 24 テーマ増の全 86 テーマ（過去最多） ^[6]

2026 年は来場者数の実績が公式サイトに掲載されており、会期は終了している^[1]。以下、事前公表情報（出展告知・プログラム）と開催後情報を合わせて整理するが、ブース展示の細部を伝える開催後レポートはまだ少ない（第 8 章参照）。

3. 2026 年の該当展示・発表（確認できた事実）

3.1 出展者の展示・プレゼンテーション

- **NTT データ（上流工程への参入）**：2026 年 8 月 19 日、AI を活用した発明発掘支援サービスの先行提供開始を発表^[2]。知財業務向けサービス群の第一弾として、発明相談から発明提案書作成までのプロセスを円滑にするサービスを 2026 年 10 月以降に提供するとしている^[2]。研究開発部門と知財部門をつなぐ位置づけで、発明提案書作成支援では不足情報や知財部門が確認すべき観点を提示する。同社は本サービスを「AI が発明を自動生成するものではなく」研究者・開発者の発明発掘を支援するものと説明^[2]。フェアではブース 3-D04 でデモを実施（ブース番号の出典は^[2,11]）。日本経済新聞も、知財関連の展示会でデモを行う予定と報じた^[3]。

- **トヨタテクニカルディベロップメント (swimy)** : 発明アイデアの入力から、図・フローチャート付き発明提案書の自動生成、特許情報分析までを一気通貫で支援し、化学式・数値範囲にも対応^[17,18]。2026 年は「swimy の生成 AI エージェント」進化版として出展し、出展者プレゼンテーション枠でも複数回発表^[17]。
- **AI Samurai** : 2026 年フェアに出展し、知財 AI エージェント (MCP サーバー) と 3 つの新機能を紹介^[9]。発明創出に直接関わるのは、(1) GPT・Claude・Gemini の 3 つの LLM が 1 つのチャット上で議論し、合議で検討を深めるマルチ AI 発明創出機能「発明御三家」、(2) 1 件の基本特許から役割の異なる 5~6 件の周辺特許群 (案) を約 5 分で自動生成する「発明ホコタテ」の 2 つ^[9]。「IP Samurai MCP サーバー」 (出展告知では「AI Samurai MCP サーバー」と表記) は 2026 年 7 月 2 日に提供開始が発表されたもので^[19]、MCP を介して Claude、Copilot 等の生成 AI ツールと日本・米国・中国の特許データベースを直接連携させ、特許実データの参照によりハルシネーションを抑える設計^[13,19]。特許調査から発明提案書・明細書作成、OA 対応までを対象とし、通常 8 時間を要する IP ランドスケープ作業を約 30 分で終えた事例も訴求^[13,19]。対象は発明発掘・発明提案書作成・請求項作成を含む 10 業務とされる^[13]。
- **リーガルテック (MyTokkyo.Ai)** : 研究アイデアの整理→関連特許の調査→既存技術との差分整理→発明提案書等の資料作成を 1 つのチャットで進める特許特化 AI エージェント。発明者自身が、知財部・特許事務所へ依頼する前の準備段階まで完結できる設計^[10]。ただし、2026 年フェアへの出展は確認できなかった (未確認。オンラインセミナーは継続開催)。
- **東芝 (IPeakMS)** : IPeakMS に蓄積された知財情報を生成 AI で活用し、発明創出から知財活用までを支援すると訴求^[11,20]。
- **aiip/AIDAO (新興・上流志向)** : aiip は、マインドマップによる発明発掘から明細書ドラフト、他社牽制までを工程別に生成 AI で支援。AIDAO は「特許×AI 内製化」を掲げ、発明創出から権利活用までの自走を支援^[11,12]。
- **root ip (自律エージェント)** : 「知財事務 AI エージェント」を初披露。メール受信を起点に書類確認・期限算出・案件更新を自律処理し、企業―事務所間のデータ同期も展示^[21]。

出展者プレゼンテーションは 9 月 18 日 12:35～13:20^[22]。発明発掘そのものではないが、知財業務の自律エージェント化を示す事例である。

- **パテント・インテグレーション（サマリア）**：特許業務支援 AI アシスタント。2026 年はサマリア MCP、類語シソーラス拡張、明細書作成支援を大型アップデート^[12,23]。出展者プレゼンテーションは調査（観点設定・該否評価）と明細書が中心で、発明創出は主軸ではない。
- **Smart-IP（appia-engine）**：明細書作成・中間対応が中心。2026 年は攻めの「Offense モード」を追加し、中間対応壁打ち AI、一般式提案 AI 等を拡充^[12]。
- **Patentfield**：特許ドメイン特化の独自 LLM「D シリーズ」を初公開（GENIAC-PRIZE 特別賞「技術新規賞」を受賞した、審査官の思考プロセスを再現する先行技術調査支援 AI を発展させたもの）^[24]。用途は調査・分析が主。
- **エムニ（AI 特許ロケット）**：ブース 3-E14 で出展（特許分析・調査が中心）^[17]。なお 2026 年 9 月 14 日、パテント・インテグレーションが同社の「AI 特許ロケット」の広告表示について、不正競争防止法に基づく差止等請求訴訟を東京地裁に提起したと公表している^[25]。これは一方当事者の公表に基づく係争中の事実であり、司法判断は示されていない。

3.2 主催者企画（特別講演・特別フォーラム・コンファレンス）

表 2 2026 年の主催者企画（日時・タイトル）

日時	区分	タイトル・内容
9/16 10:30～12:00	特別講演	JR 東日本が進めるイノベーションと、それを支える知的財産戦略
9/16 13:00～15:00	特別フォーラム	生成 AI・DX で進化する知財業務－AI ファースト時代の戦略転換
9/17 10:30～12:00	特別フォーラム	AI による生産性向上を生かした知財部門の価値向上策とは何か～本格化するトランスフォーメーションと次世代知財人材像～
9/17 13:00～17:00	知財・情報コンファレンス	特許庁・WIPO・EPO・KIPO・JETRO 等による国際セッション
9/18 10:30～12:00	特別フォーラム	AI 時代の知財・商標実務を考える～利活用の可能性と信頼性確保の課題～

出典：公式サイトおよび第三者によるまとめ^[1,12,22]。登壇者氏名・概要の原文は、公式コンファレンスページ本文を取得できず未確認。

「AI 発明者」や「AI 利活用発明の進歩性・記載要件」を独立テーマとして掲げた主催者企画セッションは特定できなかった（未確認）。政策面の背景として、2026 年 6 月 12 日に知的財産

戦略本部が「知的財産推進計画 2026」を決定している^[26]。同日の首相発言で AI 時代の知財の保護と透明性に関するプリンシプル・コードの策定が表明されたとされるが、発言の一次ソース URL は本稿の参考文献に収載できていない（第 8 章参照）。

4. 2025 年の該当展示・発表（確認できた事実）

- **全体像**：出展者プレゼンテーションは前年より 24 テーマ増の全 86 テーマで過去最多^[6]。このうち AI 関連は約 46 テーマ（53%超）とする分析がある（生成 AI による分析資料であり、主催者の公式分類ではない）^[7]。
- **発明・起草・審査カテゴリ**：アイビーリサーチ（特許専用ローカル LLM。クラウド非接続、RAG 可）、Smart-IP（appia-engine）、トヨタテクニカルディベロップメント（swimy）に集中^[7]。
- **発明創出・アイデア創出（上流）**：トヨタテクニカルディベロップメント「swimy innovation」（開発者のアイデア概要の入力から発明提案書を自動生成し、検索式案・文献抽出も支援）^[7,18]、HackCamp「共創ナビ ivan」（IP ランドスケープ×生成 AI による事業戦略・アイデア創出。正林国際特許事務所・三菱電機との共創事例）^[8]、AI Samurai（AI が発想を提示し、人間が発明へ昇華させるという訴求）、エムニ「AI特許ロケット」、ジー・サーチ（技術探索・アイデア創出）、Axelidea（ひらめき支援）^[7]。
- **NTT データ**：2025 年が初出展で、内容は技術探索・分析が中心^[27]。
- **主催者企画**：特別フォーラムで、生成 AI の事業・知財活用事例を扱うセッションを実施^[4,6]。
- **第三者レポート**：出展者として参加した塩谷綱正氏は「今年のフェアの主役は、疑いようもなく生成 AI でした」と総括する一方、IP ランドスケープはハイプ・サイクルでいう幻滅期の静けさにあると対比した。AI 時代の人間の役割は、問いの設定、価値への翻訳、変革の推進へ移るとの見方も示している^[5]。

5. 比較表：該当展示・発表の一覧

表 3 2026 年・2025 年の「生成 AI×発明発掘／創出」関連展示・発表

出展者	製品・サービス／ 発表	支援工程	技術的特徴・訴求	年	出典
NTT データ	AI を活用した発明 発掘支援サービス	発明相談、発明整 理、発明提案書作成	R&D 部門と知財部門の橋 渡し。AI は発明を自動生 成せず人を支援	2026	[2,3]
トヨタテクニ カルディベロ ップメント	swimy (2026 年は 生成 AI エージェン ト進化版)	発明提案書の自動生 成、特許情報分析	図・フローチャート生 成、化学式・数値範囲対 応、一気通貫	2025 2026	[7,17,18]
AI Samurai	IP Samurai MCP サーバー、「発明 御三家」「発明ホ コタテ」	発明創出（複数 AI の合議）、周辺特許 群案の生成、発明提 案書・請求項作成	MCP で日米中の特許 DB に直結。3 つの LLM の合 議。基本特許 1 件から周 辺 5～6 件案を約 5 分	2025 2026	[7,9, 13,19]
リーガルテッ ク	MyTokkyo.Ai (フ ェア出展は未確 認)	発明整理、関連特許 調査、差分整理、発 明提案書作成	特許特化 AI エージェン ト。1 チャットで完結	2026	[10]
東芝	IPeakMS	発明創出～知財活用	蓄積した知財情報を生成 AI で活用	2026	[11,20]
aiip	知財全工程支援 SaaS	マインドマップによ る発明発掘～明細書 ドラフト～他社牽制	工程別の生成 AI 支援	2026	[11,12]
AIDAO	特許×AI 内製化支 援	発明創出～権利活用	各社向けの AI 最適化、自 走に向けた伴走	2026	[11,12]
root ip	知財事務 AI エー ジェント	知財事務の自律処理 (発明発掘そのもの ではない)	メール受信起点の自動処 理、企業一事務所間デー タ同期	2026	[21,22]
パテント・イ ンテグレーシ ョン	サマリア	特許読解、調査、明 細書（上流は限定 的）	サマリア MCP、類語シ ーラス拡張	2025 2026	[12,23]
Smart-IP	appia-engine	明細書作成、中間対 応	Offense モード、中間対応 壁打ち AI、一般式提案 AI	2025 2026	[7,12]
Patentfield	独自 LLM 「D シ リーズ」	調査・分析	特許ドメイン特化 LLM、 審査官の思考プロセス再 現	2026	[24]

出展者	製品・サービス／ 発表	支援工程	技術的特徴・訴求	年	出典
エムニ	AI 特許ロケット	特許分析・調査	独自 AI による特許マップ 等（2026 年はブース 3- E14）	2025 2026	[7,17]
HackCamp	共創ナビ ivan	IP ランドスケープ× 生成 AI による事 業・アイデア創出	正林国際特許事務所・三 菱電機との共創事例	2025	[8]
ジー・サーチ	JDream Innovation Assist	技術探索、アイデア 創出	論文・特許・専門紙の統 合可視化	2025	[7]
Axelidea	AXELIDEA Patent	ひらめき・アイデア 支援	特許番号を起点とした価 値抽出	2025	[7]
アイビーリサ ーチ	特許専用ローカル LLM	発明・起草・審査支 援	クラウド非接続、RAG 可	2025	[7]

注：「年」は本調査で当該年の出展・発表を確認できた範囲を示す。空白年は「出展なし」を意味せず、未確認を含む。

6. 変化の考察（分析・推論）

- (1) **プレイヤーの顔ぶれ：大手 Sler の上流参入。** 最大の変化は NTT データである。2025 年は初出展で技術探索・分析が中心だったが^[27]、2026 年は発明発掘・発明提案書作成という上流工程の専用サービスを掲げた^[2]。加えて、aiip、AIDAO、root ip など、発明発掘・発明整理・自律エージェントを掲げる新興勢が増えた^[11,21]。目立った撤退は確認できないが、単機能ツールには統合圧力がかかっているとの指摘がある^[28]。
- (2) **テーマの重心：調査・明細書から上流へ。** 2025 年は調査・明細書作成の効率化が主戦場だった^[7,28]。2026 年は、発明発掘・発明整理・発明提案書作成という、研究開発部門と知財部門の橋渡し領域へ重心が移っている^[2,10]。AI Samurai の「発明ホコタテ」のように、発明 1 件の創出にとどまらず特許網（周辺特許群）の構想まで生成 AI で支援する動きも現れた^[9]。訴求も「効率化」から「発明の質・量の向上」「R&D と知財の連携」へ広がった。
- (3) **技術世代：チャットから MCP・エージェントへ。** 2026 年は MCP が共通語となり、汎用の生成 AI ツールから特許データベースを直接参照する「DB 直結型」が広がった^[12,13,23]。ハルシネーション抑制が共通の訴求点である。複数 LLM の合議（発明御三家）^[9]、特許ドメ

イン特化 LLM（Patentfield「D シリーズ」）^[24]、ローカル LLM（アイビーリサーチ、2025 年）^[7]など、モデル活用の手法も多様化した。

- (4) **セキュリティ・法的論点：「人間主体・AI 支援」の明確化。** 上流工程は未公開発明情報を扱うため、機密保持と新規性喪失リスクへの対応が導入の前提となる。NTT データが AI による発明の自動生成ではない旨を明示したことは^[2]、AI 発明者・発明者認定の論点を意識した設計と解される（推論）。政策面では知的財産推進計画 2026^[26]が背景にあるが、フェアの主催者企画で進歩性・記載要件等を正面から扱う独立セッションは確認できなかった。なお、個別製品のオンプレ／閉域対応の有無は未確認のものが多い。
- (5) **受け止め：「人間の付加価値」論の実装段階へ。** 2025 年の第三者レポートは、生成 AI の熱狂と IP ランドスケープの静寂を対比し、人間の役割の再定義を説いた^[5]。2026 年は上流工程の実サービス化により、この議論が「AI は支援に徹する」というベンダー側の設計思想に反映され始めたと見られる（推論）。ただし、2026 年の来場者の反応や企業知財部の導入事例を伝える開催後レポートは乏しく、この点の裏付けは弱い。

7. 今後の展望と示唆（分析・推論）

- **企業知財部門（第 1 段階）：**発明発掘・発明提案書作成の工程で、NTT データ、MyTokkyo.Ai、swimy、AI Samurai 等を PoC で比較する。必須要件は、(1) 未公開発明情報の取扱い（オンプレ／閉域対応、学習への不使用）、(2) 人間が発明者であることを担保できる運用（AI の寄与の記録を含む）。そのうえで、研究開発部門が自ら使える UX と、発明提案書の質の向上効果を評価する。
- **企業知財部門（第 2 段階）：**MCP による特許 DB 直結と自社ナレッジ連携へ進み、発明発掘→調査→提案書→明細書ドラフト前段までを 1 つのフローに統合する。作成時間、提案件数・質などで ROI を定量化し、全社展開を判断する。
- **特許事務所：**明細書・中間対応の効率化を進めつつ、発明のブラッシュアップ（強い権利化、特許網の設計）という人間の付加価値に集中する。周辺特許群案の自動生成のような機能は、事務所の提案業務の前提を変え得る。
- **ベンダー：**単機能ツールは統合圧力を受ける。発明発掘から権利化・活用までの業務フロー統合と、機密情報を扱えるセキュリティ設計が差別化軸になる。

- **2027 年フェアの観測点：**(1) AI 発明者・進歩性・記載要件を正面から扱う主催者企画が登場するか、(2) 企業知財部による自社実装の ROI 開示が増えるか、(3) 上流工程 AI の導入実績が公表されるか。これらが揃えば、上流工程 AI は「実験」から「標準業務」へ移行したと判断してよい。

8. 調査上の限界（未確認事項）

- 2026 年フェアの出展社・団体数、小間数の実績値は確認できていない。
- 公式コンファレンスページ（pifc.jp/2026/conference.html）の本文を取得できず、特別講演・特別フォーラムの登壇者氏名・概要は未確認。日時・タイトルは公式サイトと第三者まとめ^[1,12,22]で照合したが、うち 1 件は未検証 URL である。産経新聞社の 2026 年プレスリリースも調査過程で参照したが、URL を参考文献に収載できていない。
- 2026 年 6 月 12 日の首相発言（プリンシプル・コード策定の表明）は、一次ソース URL を収載できていない。フェアの講演での知的財産推進計画 2026 への言及の有無も未確認。
- リーガルテック（MyTokyo.Ai）の 2026 年フェア出展は未確認。各社のブース展示の細部・デモ内容は、開催後レポートが乏しく一部未確認。
- 2025 年の AI 関連テーマ比率（約 46／86 テーマ）は、生成 AI（Gemini Deep Research）による分析資料^[7]に基づく値で、主催者の公式分類ではない。2025 年の個別出展内容の多くも同資料に依拠しており、各社一次ソースでの再確認が望ましい。
- パテント・インテグレーションによるエムニへの訴訟提起^[25]は、一方当事者の公表に基づく。係争中であり、司法判断は未確定。

9. 参考文献

番号は本文の初出順。URL はいずれも 2026 年 9 月 22 日時点。【未検証 URL】は内容を取得・確認できなかったもの。

[1] 産経新聞社ほか「2026 知財・情報フェア&コンファレンス」公式サイト トップページ（開催概要・来場者数） <https://pifc.jp/2026/>

[2] NTT データ「AI を活用した発明発掘を支援するサービスを先行提供開始」（2026 年 8 月 19 日）
<https://www.nttdata.com/global/ja/news/topics/2026/081900/>

[3] 日本経済新聞「NTT データ、AI で企業の知財業務を支援 発明の発掘を効率化」（2026 年 8 月 19

- 日) https://www.nikkei.com/article/DGXZQOMG00015_Z10C26A8000000/
- [4] 産業経済新聞社「過去最大の 152 社出展『第 34 回 2025 知財・情報フェア&コンファレンス』9 月 10 日、東京ビッグサイトで開幕」PR TIMES (2025 年 8 月 5 日)
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001963.000022608.html>
- [5] 塩谷綱正 (イーパテント・アクティス) 「知財情報フェア 2025 で感じたこと | AI の熱狂と IP ランドスケープの静寂」note (2025 年 9 月 14 日) <https://note.com/tshioya/n/n693af7673e97>
- [6] 「2025 知財・情報フェア&コンファレンス」公式サイト「来場のご案内」 <https://pifc.jp/2025/visit/>
- [7] よろず知財戦略コンサルティング公開資料「2025 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者プレゼンテーション」 (全 86 テーマの AI 関連分析、Gemini Deep Research による。2025 年 8 月) 【二次資料：生成 AI による分析】
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/52f8201820c2e36b82c9.pdf>
- [8] HackCamp 「【展示会情報】『2025 知財・情報フェア&コンファレンス』に出展決定」 (2025 年 8 月) <https://hackcamp.jp/news/expo-202509/>
- [9] AI Samurai 「2026 知財・情報フェア&コンファレンスに出展します！知財 AI エージェント『MCP サーバー』および AI Samurai ONE の新機能を紹介！」PR TIMES (2026 年 9 月)
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000306.000021559.html>
- [10] リーガルテック「MyTokyo.Ai とは | 研究アイデアの整理から特許調査・資料作成までを 1 チャットで行える AI サービス」note (2026 年 4 月 24 日) https://note.com/tokkyo_ai/n/n4d2d3363c343
- [11] AiMeet Portal 「2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者一覧」 (2026 年)
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors>
- [12] 知財デジタルイノベーションハブ「【2026 知財・情報フェア】知財サービス新機能まとめ」posfie (2026 年 9 月) https://posfie.com/@ip_dih/p/0W2dUoh
- [13] AI Samurai 「AI が特許 DB を自由自在に操る時代へ。企業の生産性を圧倒的に高める『知財 AI エージェント』提供開始」PR TIMES (2026 年 7 月)
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000300.000021559.html>
- [14] 「2026 知財・情報フェア&コンファレンス」公式サイト内ページ (report.html：開催報告)
<https://pifc.jp/2026/report.html>
- [15] 日本特許情報機構 (Japio) 「知財・情報フェア&コンファレンス」 <https://japio.or.jp/fair/index.html>
- [16] INPIT 「2026 知財・情報フェア&コンファレンスに出展します」 (2026 年 8 月 18 日)
https://www.inpit.go.jp/about/topic/info_20260818.html
- [17] Response.jp 「トヨタテクニカルディベロップメント、生成 AI で知財支援を披露…『2026 知財・情報フェア』出展」 (2026 年 8 月 28 日) <https://response.jp/article/2026/08/28/415870.html>
- [18] 日本経済新聞 (プレスリリース) 「トヨタテクニカルディベロップメント、知財業務支援ツール『swimy』をリリース」 (2024 年 9 月)

https://www.nikkei.com/article/DGXZRSP679003_W4A920C2000000/

- [19] AI Samurai「AI エージェントで知財業務はここまで変わる！『IP Samurai MCP サーバー』無料オンラインセミナーを8月3日に開催！」（2026年7月17日） <https://aisamurai.co.jp/2026/07/17/ai-エージェントで知財業務はここまで変わる！「ip-samura/>
- [20] 東芝デジタルソリューションズ「2026 知財・情報フェア&コンファレンス」イベント情報（2026年9月） <https://www.global.toshiba.jp/company/digitalsolution/event/2026/0916-0918.html>
- [21] root ip「『仕事 cameたら、もう終わっている。』知財事務 AI エージェントを root ip が知財・情報フェアで初披露」PR TIMES（2026年9月）
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000166451.html>
- [22] 知財デジタルイノベーションハブ「【知財・情報フェア&コンファレンス 2026】セミナー・プレゼン情報まとめ」Substack（2026年9月6日）【未検証 URL：アクセス制限により全文を確認できず】
<https://ipdigitalinnovationhub.substack.com/p/2026>
- [23] パテント・インテグレーション「『2026 知財・情報フェア&コンファレンス』に出展」PR TIMES（2026年9月） <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000027.000086119.html>
- [24] Patentfield「『2026 知財・情報フェア&コンファレンス』出展のお知らせ」PR TIMES（2026年9月） <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000067.000025380.html>
- [25] パテント・インテグレーション「株式会社エムニに対する不正競争防止法に基づく訴訟提起に関するお知らせ」PR TIMES（2026年9月）
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000030.000086119.html>
- [26] 知的財産戦略本部「知的財産推進計画 2026」（2026年6月12日）
https://www.cas.go.jp/jp/seisakukaigi/titeki2/260612/keikaku_all.pdf
- [27] NTT データ「第 34 回 2025 知財・情報フェア&コンファレンス」イベント情報（2025年9月）
<https://www.nttdata.com/jp/ja/trends/event/2025/091001/>
- [28] GrIP「生成 AI×知財ツール完全ガイド【フェーズ 1】発明創出から明細書作成まで」（2026年）
<https://growing-ip.com/?p=1413>